

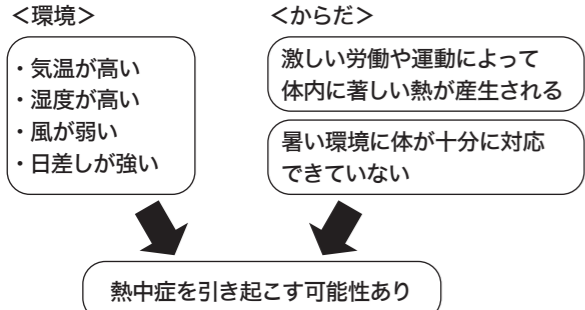
快適環境お知らせ機能 説明書

対象機種 快適環境お知らせ 住宅用火災(煙式)・CO警報器 SC-725T

熱中症について

熱中症とは、高温環境下で、体内の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。

■ 熱中症を引き起こす条件



■ 特に注意を要する事項

- 1 幼児・学童は体温調節機能が未発達であり、適切な水分・塩分の補給は保護者によって行われるため、保護者の対応が不適切になると発症しやすい。
- 2 65歳以上の高齢者、特に75歳以上の後期高齢者は発汗能や口渇感等、体温調節機能が低下する。このために熱中症を発症しやすい。
- 3 肥満者は、より体温が上昇しやすい傾向にあるため、熱中症を発症しやすい。
- 4 仕事や運動(スポーツ)に無理をしすぎる人、頑張りすぎる人は熱中症を発症しやすい。
- 5 基礎疾患(高血圧、心疾患、慢性肺疾患、肝臓病、腎臓病、内分泌疾患など)のある人、寝たきりの人。熱中症の発症を助長する以下のような薬を服用している人。抗コリン作用のある薬(鎮痙薬＊、頻尿治療薬＊、パーキンソン病治療薬＊、抗ヒスタミン薬、抗てんかん薬、睡眠薬・抗不安薬、自律神経調節薬、抗うつ薬、β遮断薬、ある種の抗不整脈薬、麻薬)は発汗抑制を来たす可能性がある。利尿剤は脱水を来たしやすい。興奮剤・覚せい剤は代謝を亢進させる。多くの抗精神病薬＊は体温調節中枢を抑制する可能性がある。
＊ 医薬品添付文書に、「発汗(あるいは体温調節中枢)が抑制されるため、高温環境では体温が上昇する恐れがある」との記載のあるもの。
- 6 発熱、下痢、二日酔い等、体調不良の場合は発症しやすい。
- 7 農作業、安全対策作業等で厚着、安全服等で全身を覆う場合。
- 8 急激に高温となった場合(例えば6月以前)。また、日常生活で高温暴露の経験が少ない場合、旅行や移動(涼しい場所から高温の場所へ)の場合および気象変化などで急激に高温となった場合など。

出典：日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.3より

熱中症予防のための水分補給について

■水分・塩分補給の目安

- 1 日常生活における水分補給：基本的に、不感蒸泄や発汗による水分の補給が必要である。睡眠時、入浴時にも発汗する。就寝前、起床時、入浴前後にコップ一杯(約200ml)の水分を補給する。
日中はコップ半分程度の水分を定期的に(1時間に1回程度)補給する。のどの渇きを感じる前に水分補給を心がける。特に高齢者は口渇感等の感覚が衰えており、十分に注意する必要がある。
- 2 運動時や作業時の補給：水分の補給量は体重減少量の7～8割程度が目安となる。体重の2%以上の脱水を起こさないよう注意する。大量に発汗する運動時や作業時には水分と同時に塩分補給が重要である。0.2%程度の塩分を含む水分を補給するよう心がける。
作業前：コップ1～2杯程度の水分・塩分を補給する。
作業中：コップ半分～1杯程度の水分・塩分を20～30分ごとに補給する。
作業後：30分以内に水分・塩分を補給する。
- 3 飲酒時の補給：アルコールは利尿作用が強く、飲酒量以上の水分を排泄するので、飲酒後は、水分を十分に補給する。
- 4 空調装置使用時の補給：室内は空気が乾燥することから、気がつかないうちに脱水が生じる。こまめに水分を補給する。

出典：日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.3より

熱中症環境お知らせ機能

警報器周囲の温度・湿度が規定値以上になるとお知らせします。

《お断り》

- 温度、湿度の組み合わせから得られる目安を表示するものです。個人差、体調により感じ方が異なる場合があります。
- 警報器から離れた場所や屋外は表示できません。
- 公的機関から発表される「注意」「警報」と一致しない場合があります。
- 電池切れまたは故障お知らせ中は、ランプ表示と音声鳴動を行いません。

基準暑さ指数(WBGT値)	ランプ表示	熱中症環境お知らせ動作	症状・対策
危険(31℃以上)	橙点滅(60秒に1回)	点滅から10分後「ポーン 部屋がたいへん暑くなっています 風通しをよくし水分や塩分を取るようにしましょう」と鳴ります。橙ランプ点滅がさらに継続した場合、30分後と60分後にも上記と同じフレーズが鳴ります。それ以降は橙ランプ点滅のみで音声は発しません。 ※ この状態で警報停止スイッチを押すと熱中症お知らせの音声が鳴動します。以降、音声は停止します。	熱中症の危険があります。エアコンなどで部屋の温度と湿度を下げるようにしてください。体温の上昇に注意し、十分な水分補給を行ってください。
嚴重警戒(28℃以上～31℃未満)	橙点滅(60秒に1回)	点滅	※ この状態で警報停止スイッチを押すと熱中症お知らせの音声が鳴動します。

- 警報器周囲が適切な温度環境になるとお知らせ状態は自動的に解除されます。

乾燥について

湿度が低くなるとインフルエンザウイルスの繁殖は活発になります。加湿器などで室内の湿度を調整しながら乾燥を防ぐことが必要となります。

■絶対湿度とインフルエンザ予測

絶対湿度	
[11g/m ³ 以下]	インフルエンザの流行が始まる湿度
[7g/m ³ 以下]	インフルエンザの流行が大きくなる湿度

日本におけるインフルエンザの流行予測 地球環境 Vol.8 No2,165-174 (2003) より

・絶対湿度：空気に含まれる水蒸気量

■温度と湿度の管理について

冬

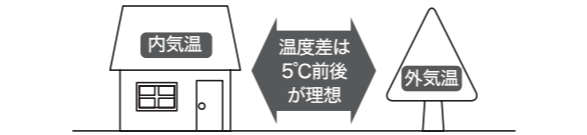
■冬は乾燥に注意

冬は乾燥しやすい季節です。乾燥した状態が続き、湿度が低くなるとインフルエンザウイルスの繁殖が活発になります。加湿器などで室内を適度に調整しましょう。

夏

■クーラー病に注意

ルームエアコンの普及により冷やしすぎが多いようです。冷やしすぎるとクーラー病にかかりやすくなります。内気温と外気温の差は5℃前後が目安です。冷やしすぎに注意しましょう。



乾燥環境お知らせ機能

警報器周囲の温度・湿度が規定値以下になるとお知らせします。

《お断わり》

- 絶対湿度や温度等から推測される季節性インフルエンザのウイルスの生存しやすさを表示するもので、ウイルスの存在を断定するものではありません。
- 新型インフルエンザには対応していません。
- 電池切れ警報中または故障警報中は、ランプ表示と音声鳴動を行いません。

基準	ランプ表示	乾燥環境お知らせ動作	症状・対策
絶対湿度 [7g/m ³ 以下] 温度 [30℃未満]	青点滅(60秒に1回)	※ この状態で警報停止スイッチを押すと乾燥お知らせの音声が鳴動します。 点滅	インフルエンザウイルスが蔓延しやすい環境です。加湿器などを使用して適切な湿度(50～60%)を保ってください。手洗い・うがいを徹底しましょう。

- 警報器周囲が適切な湿度環境になるとお知らせ状態は自動的に解除されます。

お知らせ切り替え機能

快適環境お知らせは、初期設定では、熱中症(危険、嚴重警戒)・乾燥を全てお知らせします。

警報停止スイッチを約10秒操作することで、熱中症(嚴重警戒)・乾燥のお知らせを行わないよう設定を切り替えることができます。

- ① 警報器が火災警報・CO注意報動作中や警報音停止中ではないことを確認してください。
- ② 警報停止スイッチを約10秒操作してください。
- ③ 警報停止スイッチから手を離してください。設定が切り替えられ、熱中症お知らせ「危険」のみのお知らせになります。

	【初期設定】 お知らせを全て表示	【切り替え後】 熱中症環境お知らせ「危険」のみ お知らせ
危険	橙ランプ表示と音声でお知らせ 橙ランプ点滅	「ポーン 部屋がたいへん暑くなっています 風通しをよくし水分や塩分をとるようにしましょう」と鳴ります。 「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」
熱中症お知らせ	橙ランプ表示でお知らせ 橙ランプ点滅	ランプ表示なし、音声なし
嚴重警戒	青ランプ表示でお知らせ 青ランプ点滅	ランプ表示なし、音声なし

※ 設定切り替え後、再度警報停止スイッチを10秒間操作すると、初期設定に戻すことができます。

快適環境お知らせ動作確認機能

■初期設定の場合

- ① 警報器が火災警報・CO注意報動作中や警報音停止中ではないことを確認してください。
- ② 警報停止スイッチを約6秒操作してください。
緑(お知らせ)ランプが点滅し、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」と鳴ります。
- ③ 警報停止スイッチから手を離してください。
1) 橙ランプが点滅し「ポーン 部屋がたいへん暑くなっています 風通しをよくし水分や塩分をとるようにしましょう」と鳴ります。
2) 青ランプが点滅し「ポーン 部屋が乾燥しています 加湿や手洗い うがいをを行うようにしましょう」と鳴ります。
3) 「ピー」と鳴り、終了します。

■切り替え後の場合

- ① 警報器が火災警報・CO注意報動作中や警報音停止中ではないことを確認してください。
- ② 警報停止スイッチを約6秒操作してください。
緑(お知らせ)ランプが点滅し、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」と鳴ります。
- ③ 警報停止スイッチから手を離してください。
1) 橙ランプが点滅し「ポーン 部屋がたいへん暑くなっています 風通しをよくし水分や塩分をとるようにしましょう」と鳴ります。
2) 「ピー」と鳴り、終了します。
※ 設定切り替え後、再度警報停止スイッチを約10秒間押すと、初期設定に戻すことができます。

